

2020年（令和二年） 12月25日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

## ■ 概況

12/10~12/16のNYMEX・WTI先物市場は、46.57~47.82ドルの範囲で推移した。

12月17日は、前日発表の米国原油在庫減少への好感、新型コロナワクチンの接種開始等感染収束への期待感から、4営業日続伸した。連邦準備制度理事会(FRB)の量的緩和方針の長期継続示唆による為替相場でのドル安進行も値上がり要因となった。1月限の終値は前日比0.54ドル高の48.36ドル。2月26日以来、10か月ぶりの高値を記録した。

週末18日は、米食品医薬品局(FDA)の諮問委員会がモデルナ社製新型コロナワクチンの使用許可を勧告するなど、引き続き、早期感染収束への期待感が高まる中、5営業日続伸した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比5基増の263基と4週連続の増加となった。1月限の終値は前日比0.74ドル高の49.10ドル。

週明け21日は、英国を中心とする新型コロナ変異種の感染拡大懸念で、6営業日ぶりに反落した。持ち高調整や米国議会が合意した総額9000億ドルの追加経済対策を好感する買いも入ったが、限定的だった。1月限終値は前週末比1.36ドル安の47.74ドル。

22日は、ロンドンの都市封鎖、各国による対英航空路の相次ぐ停止など、英国で確認された新型コロナ感染症の変異種への警戒感が高まり、続落した。この日から直近限月に繰り上がった2月限の終値は前日比0.95ドル安の47.02ドル。

23日は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比60万バレル減と2週連続の減少になり、ガソリン・中間留分在庫も予想に反した取り崩しとなった。ナイジェリアの原油出荷施設事故の不可抗力条項発動も上

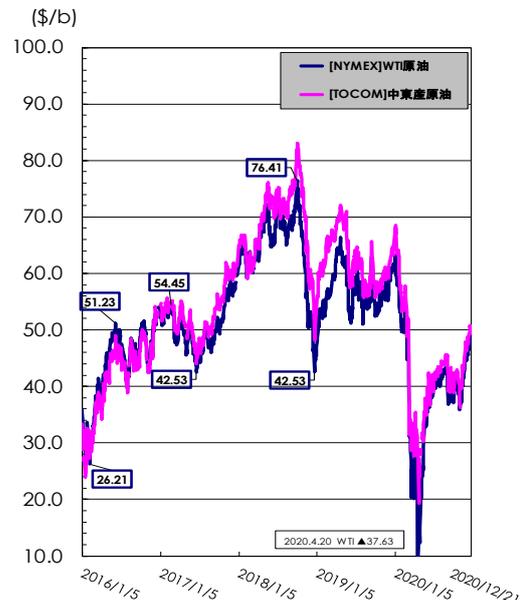
昇要因となった。2月限の終値は前日比1.10ドル高の48.12ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は12月10日~16日の間48.60~50.60ドルの範囲で推移した。12月17日51.60ドル、18日51.10ドル、21日50.60ドル、22日49.60ドル、23日49.20ドルと推移した。

為替は12月10日~16日の間103.73~104.28円の範囲で推移した。12月17日103.44円、18日103.26円、21日103.40円、22日103.34円、23日103.65円で推移した。

そのような中で、12月21日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値上がり、軽油も同0.6円の値上がり、灯油は7円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりだった。この週(12月第3週)の原油コストは値上がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比0.5円の引き上げとなった。

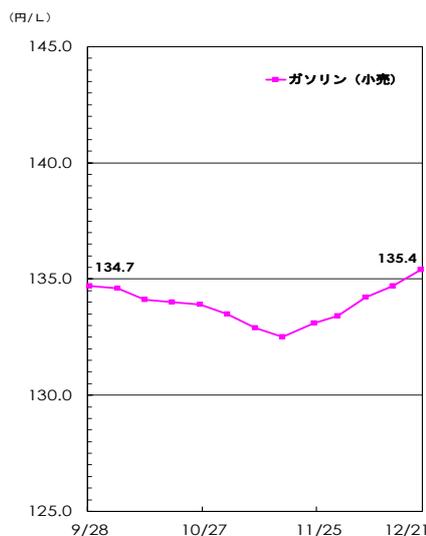
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/13 ~ 12/19	3,115 ▲35	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.0 ▲1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/19	10,741 ▼164	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/21	49.98 ▲0.58	▼ -13.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/21	47.74 ▲0.75	▼ -12.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	41.97 ▼0.18	▼ -22.96
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	27,617 ▼77	▼ -16,811
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.60 ▼0.13	▲ 4.18
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/21	104.40 ▲0.64	▲ 6.02



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/13 ~ 12/19	942 ▲ 117	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	797 ▼ -35	▼ -	
	輸出	"	121 ▲ 105	▲ -	
	在庫	12/19	2,001 ▲ 25	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/15 ~ 12/21	46.6 ▲ 0.8	▼ -14.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/15 ~ 12/21	43.8 ▲ 0.8	▼ -14.6
		(TOCOM/中部)	12/21	46.5 ▲ 1.5	▼ -13.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/21	135.4 ▲ 0.7	▼ -13.4	

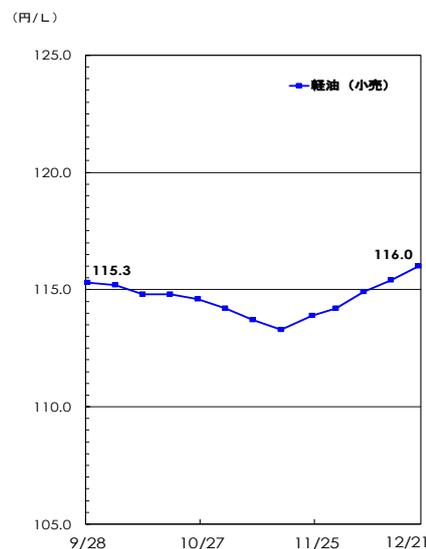
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

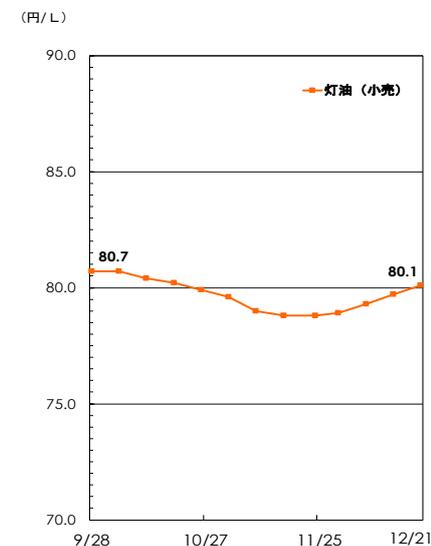
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/13 ~ 12/19	703 ▲ 53	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	631 ▲ 11	▼ -	
	輸出	"	97 ▲ 45	▼ -	
	在庫	12/19	1,552 ▼ -25	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/15 ~ 12/21	49.1 ▲ 0.6	▼ -15.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/15 ~ 12/21	50.4 ▲ 0.7	▼ -15.1
		(TOCOM/中部)	12/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/21	116.0 ▲ 0.6	▼ -13.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/13 ~ 12/19	294 ▼ -160	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	391 ▼ -86	▼ -	
	輸出	"	101 ▲ 101	▲ -	
	在庫	12/19	2,705 ▼ -198	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/15 ~ 12/21	48.6 ▲ 1.0	▼ -15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/15 ~ 12/21	47.1 ▲ 0.9	▼ -15.6
		(TOCOM/中部)	12/21	48.5 ▲ 1.0	▼ -15.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/21	80.1 ▲ 0.4	▼ -12.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月23日のNYMEXのWTI先物原油は、3日営業日ぶりに反発した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比60万バレル減と市場予測(同320万バレル減)を下回る取り崩しながら、2週連続の減少になり、ガソリン・中間留存在庫も予想に反した取り崩しとなった。また、ナイジェリアの原油出荷施設で事故があり、不可抗力条項を発動したとのエクソンモービルの発表、外国為替市場でのユーロ高・ドル安の進行も上昇要因となった。2月限の終値は前日比1.10ドル高の48.12ドル、3月限の終値は同1.08ドル高の48.24ドル。

EIAによると、12月21日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.6セント値上がりの1ガロン2.224ドル(61.3円/ℓ)、ディーゼルは同6.0セント値上がりの2.619ドル(72.1円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは7週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年12月13日～12月19日に休止したトッパー能力は16.3万バレル/日で、前週に対して8.6万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は311.5万klと、前週に比べ3.5万kl増加。前年に対しては40.4万klの減少。トッパー稼働率は81.0%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては8.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/14.2%増、ジェット/44.8%増、灯油/35.3%減、軽油/8.1%増、A重油/5.9%増、C重油/13.1%増。今週のC重油の輸入は0.3万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は9.7万kl(前週比4.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は79.7万kl(対前週4.2%減)と2週連続で減少した。ジェット5.6万kl(対前週58.4%減)、灯油39.1万kl(対前週18.1%減)、軽油63.1万kl(対前週1.8%増)、A重油23.6万kl(対前週5.8%増)、C重油15.0万kl(対前週45.7%増)。

(単位:千kl)

	今週 (12/13 ~ 12/19)	前週 (12/6 ~ 12/12)	前週比
ガソリン	797	832	▼ -35 (-4%)
ジェット燃料	56	134	▼ -78 (-58%)
灯油	391	477	▼ -86 (-18%)
軽油	631	620	▲ 11 (2%)
A重油	236	223	▲ 13 (6%)
C重油	150	103	▲ 47 (46%)
合計	2,261	2,389	▼ -128 (-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月19日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは200.1万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては39.4万kl多い。

灯油は270.5万kl、前週差19.8万kl減。前年に対しては36.4万kl多い。

軽油は155.2万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては11.3万kl多い。

A重油は80.4万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては9.2万kl多い。

C重油は191.9万kl、前週差5.0万kl減。前年に対しては1.8万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (12/19)	前週 (12/12)	前週比
ガソリン	2,001	1,976	▲ 25 (1%)
ジェット燃料	768	717	▲ 51 (7%)
灯油	2,705	2,903	▼ -198 (-7%)
軽油	1,552	1,577	▼ -25 (-2%)
A重油	804	801	▲ 3 (0%)
C重油	1,919	1,969	▼ -50 (-3%)
合計	9,749	9,943	▼ -194 (-2.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月15日～21日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月15日～21日の製品スポット市況は、12月8日～14日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(12/15～12/21)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(12/8～12/14)比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。直近(12/15～12/21)において、ガソリンは99～100円台で値上がり、灯油は47～49円台で値上がり、軽油は48～49円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(12/15～12/21)に、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(12/15～12/21)に、ガソリンは101～102円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、灯油は46～48円台で大きく値上がり、軽油は50～51円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間(12/15～12/21)に、ガソリン97円台で出入り後横ばい、灯油46～47円台で値上がり、軽油50円台で値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (12/15 ~ 12/21)	前週 (12/8 ~ 12/14)	前週比
	レギュラー	46.6	45.8
灯油	48.6	47.6	▲ 1.0
軽油	49.1	48.5	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (12/15 ~ 12/21)	前週 (12/8 ~ 12/14)	前週比
	レギュラー	43.8	43.0
灯油	47.1	46.2	▲ 0.9
軽油	50.4	49.7	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/15～12/21実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.8
灯油	▲ 1.0	▲ 0.9	▲ 1.0
軽油	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 0.7
A重油	▲ 0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

12月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の135.4円、軽油も同0.6円高の116.0円、灯油は18%ベースで同7円高の1,441円(1%ベースでは80.1円同0.4円高)。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは43都道府県、横ばいは2県、値下がり2府県となった。全国最安値は128.8円の宮城県(前週比0.3円高)、その次に安かったのは129.3円の徳島県(同1.6円高)、最高値は144.8円の鹿児島県(同1.8円高)だった。最も値上がりしたのは、同2.9円高の滋賀県(133.7円)、横ばいは長崎県・香川県の2県、最も値

下がりしたのは、同0.1円安の秋田県(130.6円)と京都府(139.2円)だった。

今週(12月15日～21日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週・次々週(12月24日～1月6日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった。次回調査時(1月4日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/21)	前週 (12/14)	前週比	直近高値
レギュラー	135.4	134.7	▲ 0.7	08/8/4 185.1
灯油	80.1	79.7	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	116.0	115.4	▲ 0.6	08/8/4 167.4

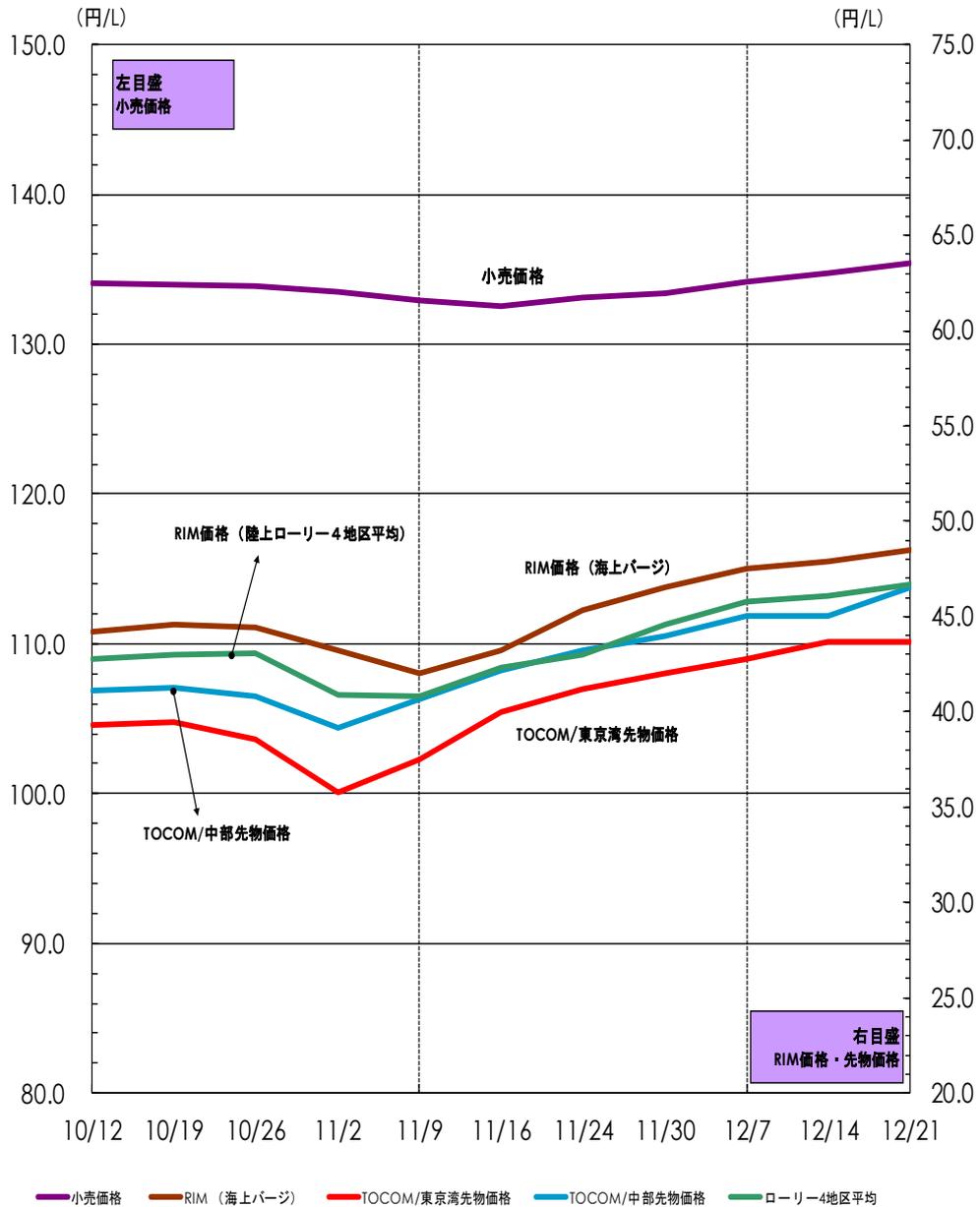
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/10/12 ~ 2020/12/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第26号)の公表は、1/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。